



小宮地区の山中では、昔、谷戸田だった場所で、コレンジャーと一緒に整備を行い、植生環境の改善や池作りを行っています(写真①)。3年間続けた成果、ヤマアカガエルやモリアオガエル、アカハライモリなどが生息する様になりました。また、両生類や水生生物だけでなく、キツネやフクロウ、多くの野鳥などがこの場所を利用しています。

今年1月、菅生地区にある池(写真②)を整備した直後にヤマアカガエルの産卵が始まりました。

この頃気温が大きく変動し、暖かい日の後の小雨で春の訪れを感じたのか、両生類は直ぐに反応し活発になった様です。

今後は、気候変動で自然界にどのような変化がおき、どのような影響が出るのでしょうか。



今年も間に合った・・・ 水場

これまで大幅に減少してきたトウキョウサンショウウオなどの両生類のために、今年も産卵場所の整備など、保全活動を行いました。多くの水田や湿地がなくなり、止水系の生き物の適切な水場が少なくなった現在は、このような環境を好んで生息する両生類などのための水場作りやその整備は欠かせない活動になってきました。

今年は、暖冬の影響か、様々な両生類が例年よりも早く活発になり、繁殖を始めています。毎年、両生類の繁殖に間に合うよう12月～2月に水場作りやその整備を行います。しかし、今年の始まりは早く、特に通常3月が繁殖のピークとなるトウキョウサンショウウオは、1ヶ月も早く繁殖を始め、繁殖のピークは2月中旬となりました。

今年は山の水量が多い影響か、水場の水は満タンで、ほっとします。両生類やトンボなどが、問題なく繁殖できる様に祈ります。

今年の新しい「命」、頑張れよ！



菅生地区で、市民の方々と力を合わせ、両生類の新たな産卵場所を作りました(写真③)。元々希少な湿地でしたが、干上がった状況が長年続いていた影響で、付近に生息しているトウキョウサンショウウオなどが産卵できなくなり、個体数が激減していました。そこで、大きな池を作り、アライグマ対策などを行いながら管理するようにしました。これからは両生類の個体数の増加が期待されます。



1月末に、マヒワの群れが杉林に飛来し、杉の雄花を採食し始めました。これは正しく花粉対策です(写真④)。

今回のスター「マヒワ」

冬鳥で山地などの森に飛来するマヒワですが、今年は非常に多くの飛来を感じました。黄色く、少し地味な野鳥と思う人が多いかも知れませんが、私は「マヒマヒちゃん」と呼び、寒い冬の山で活動している時、鳴きながら飛来してくると賑やかでいい気分になります。奥山では比較的多く見られますが、今年は菅生や秋川の丘陵地など、雑木林でもよく見かけました。「マヒマヒちゃん」は3月に北上し繁殖地に渡ります。

マヒマヒちゃん、また来年ね！

もう春です・・・

[パibro]

